宮崎大学医学部附属病院麻酔科専門医研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

宮崎大学を中心として宮崎県全土に及ぶ関連研修施設で、それぞれの病院の特性を生かした研修を行う。宮崎大学では、麻酔の初歩から心臓手術などの高度な麻酔に加え、ＩＣＵやペインクリニックなどの専門技術を習得する。県立病院群においては、主に麻酔に関して研修を行うが、心臓手術や開腹手術なども幅広く研修することができる。医師会病院群では、交通外傷や緊急手術の麻酔など救急関連の麻酔を多く経験し、救急医療の最前線で高度救命治療ならびに緊急麻酔を経験できる。都城医療センターでは、呼吸器手術や緊急帝王切開など、潤和会記念病院では付設されているペインセンターや救急ＩＣＵで痛みの治療や救急集中治療に関する高度な研修を受けることができる。県外施設として、神戸大学医学部附属病院と連携しており、宮崎県以外の研修先にて幅の広い麻酔研修を実施することができる。

今年度から、厚生労働省の指示により大都市圏での麻酔専門医研修に対し、シーリングが設定されている。そこで、上限の対象外である当大学が受け皿となり、麻酔科専門医を目指す若手を育成し、麻酔科医不足の現状に一石を投じる考えである。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

3. 専門研修プログラムの運営方針

研修1～2年目は宮崎大学で麻酔の基礎から心臓手術まで幅広く麻酔を経験し麻酔認定医および標榜医を取得する。3年次に基幹研修施設にて、各施設に特徴的な麻酔技術を習得する。4年次は、大学病院にてＩＣＵやペインクリニックなどの関連分野を研修し、あわせて麻酔専門医取得を目指す。

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間は専門研修基幹施設で研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．
- 地域医療の維持のため，最低でも一年以上は地域医療支援病院である宮崎県立延岡病院または宮崎県立延岡病院で研修を行う．
- 九州地区の関連施設での研修を希望する場合は、研修登録の時点であらかじめプログラム責任者と協議する．なお、宮崎大学で半年間の研修は必須である。

その他、以下の特徴を有する．

勉強会/抄読会と症例検討会（年12回以上）

週に1度程度の割合で抄読会や勉強会を実施する．その論文は，現在の周術期管理に影響を受けると思われる国際的なガイドラインやレビューを対象としている．また、超音波ガイド下神経ブロック（年４回)、その時のトピックスを取り上げた外部講師の招聘を含むセミナー（年数回）を開催している．

また必要に応じて火曜日には、循環器内科および心臓外科とともに経カテーテル的大動脈弁留置術の症例検討会を開催している．

平日勤務日に、毎朝開催される術前症例カンファレンスのほかに各種研究発表会に参加し、麻酔科領域の専門知識の習得をはかる。

日本麻酔科学会支部の行う症例検討会、年に３−４回開催する麻酔関連研修会、麻酔科医会講演会への参加を必須とする．

年に2回、多種職（手術部看護師長、集中治療部看護師長、臨床工学技師長、担当薬剤師）による専攻医の評価について、文書で研修管理委員会に報告し、次年次以降の専攻医への指導の参考とする．

本プログラムの研修医師には、附属図書館への電子アクセス及びデータベースの検索権限を発行し、自己学習の環境を整えており、医療安全や医療倫理，院内感染に関する院内講習会が定期的に開催されており，受講を義務としている．

年度ごとに多種職（手術部看護師長、集中治療部看護師長、臨床工学技師長、担当薬剤師）による専攻医の評価について、文書で研修管理委員会に報告し、次年次以降の専攻医への指導の参考とする．

＜研修実施計画例＞

	宮崎県下中心タイプ	県外中心タイプ
初年度 前期	本院　麻酔	県外連携施設
初年度 後期	本院　麻酔	県外連携施設
２年度 前期	県内連携施設	県外連携施設
２年度 後期	県内連携施設	県外連携施設
３年度 前期	本院　集中治療 県内	県外連携施設
３年度 後期	本院　ペイン 県内	県外連携施設
４年度 前期	県内連携施設 県外連携施設	本院　麻酔
４年度 後期	県内連携施設 県外連携施設	本院　麻酔

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
当直			当直				当直

４．研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

宮崎大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：恒吉 勇男

専門研修指導医:

恒吉　勇男（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

指宿　昌一郎（麻酔）

谷口　正彦（集中治療）

山賀　昌治（ペインクリニック）

山下　幸貴（集中治療）

矢野　武志（麻酔、手術部）

川﨑　祐子（麻酔）

與那覇　哲（集中治療）

田村　真由子（麻酔）

越田　智広（集中治療）

太田尾　剛（麻酔）

石山　健次郎（麻酔）

深尾　麻由（集中治療）

日髙　康太郎（麻酔）

児玉　芳史　（麻酔）

吉海　瑞穂（ペインクリニック）

興梠　聡志（麻酔）

清水　拓海（麻酔）

麻酔科認定病院番号：174

特徴：宮崎大学では、麻酔の初歩から食道がん手術や心臓手術などの高度な麻酔に加え、ICU やペインクリニックなどの専門技術を習得する。最先端手術の TAVI 手術やロボット手術（ダビンチ手術）の麻酔も経験できる。

②　専門研修連携施設

・宮崎県立宮崎病院

研修プログラム統括責任者：森　信一郎

専門研修指導医:

森　信一郎（麻酔）

義川 祐子（麻酔、緩和ケア）

新福　玄二　（麻酔）

門田　瑶子（麻酔）
溜渕　昌美（麻酔）
菓子野　里奈（麻酔）
麻酔科認定病院番号：321
特徴：宮崎市の基幹病院として多くの症例を施行している。症例も豊富にあり、偏りなく麻酔研修ができる。

・宮崎江南病院
研修プログラム管理者：近藤　修
専門研修指導医:
近藤　修（麻酔）
山下　昌子（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1799
特徴：一般外科、整形外科、形成外科など落ち着いた麻酔症例を経験できる。熱傷や形成外科の緊急手術など比較的まれな麻酔を経験できる。

・潤和会記念病院
研修プログラム管理者：中村 禎志
専門研修指導医:
中村 禎志（麻酔）
外山 祥子（麻酔）
矢野 都子（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1113
特徴：麻酔、集中治療、ペインクリニックそれぞれに専門医を有し、幅広い研修が可能である。症例数も多い。

・都城市郡医師会病院
研修プログラム管理者：涌水 涼子
専門研修指導医:
涌水 涼子（麻酔）
長嶺 佳弘（麻酔）
麻酔科認定病院番号：931
特徴：県西の緊急手術を多く引き受けている。特に緊急の脳神経外科手術が多い。

・産業医科大学病院
研修実施責任者： 堀下　貴文

専門研修指導医：
堀下　貴文（麻酔）
寺田　忠徳（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）
山本　克己（麻酔，救急医療）
濵田　高太郎（麻酔）
橋本　航（麻酔）
原　幸治（麻酔，ペインクリニック）
瀧山　さゆり（麻酔）
安波　恵介（麻酔）
毛利　祥子（麻酔）
長友　逸朗（麻酔）
淺田　匠（麻酔）
認定病院番号：184
特徴：産業医科大学病院は，北九州唯一の特定機能病院として高度医療を提供し続けており，地域がん診療連携拠点病院としても地域において重要な役割を担っている．また，手術症例は多岐にわたっており，ほぼ全ての外科系手術の麻酔管理の研修が可能であり，特殊疾患患者や重症患者の手術も多いため，質の高い教育を提供することができる．

・久留米大学病院
研修プログラム統括責任者：平木　照之
専門研修指導医：
平木　照之
原　将人
中川　景子
平田　麻衣子
亀山　直光
横溝　美智子
太田　聡
服部　美咲
藤田　太輔
木本　義敬
西原　千晶
川上　真代
認定病院番号：41

特徴：福岡県南部の中核病院。新生児、開心術、高難度手術など幅広く手術麻酔を行っています。手術症例数が豊富であり専門医として必要な手技を数多く経験することができます。

・大牟田市立病院

研修実施責任者：上瀧　正三郎
専門研修指導医：
上瀧　正三郎（麻酔）
伊藤　貴彦（麻酔、救急医療）
認定病院番号：386
特徴：地域医療支援病院、がん診療拠点病院、災害拠点病院。小児麻酔や産科麻酔、脳神経外科や胸部外科の症例が豊富で緊急手術も多い。災害拠点病院でもあり、救急医療にも力を入れている。

・筑後市立病院

研修実施責任者：江島　美紗
専門研修指導医：
江島　美紗（麻酔）
合原　由衣（麻酔）
認定病院番号：900
特徴：災害拠点病院。鏡視下手術の麻酔や手術室外での麻酔を経験できる。

・神戸大学医学部附属病院

施設責任者：小幡　典彦
専門研修指導医：
小幡　典彦（麻酔）
野村　有紀（麻酔、ペインクリニック）
大井　まゆ（麻酔、小児）
巻野　将平（麻酔、集中治療）
法華　真衣（麻酔、心臓血管）
末原　知美（麻酔）
牛尾　将洋（麻酔、集中治療）
上野　喬平（麻酔、ペインクリニック）
西村　太一（麻酔、集中治療）
岡田　卓也（麻酔、心臓血管）
藤本　大地（麻酔、集中治療）

武部　佐和子（麻酔、心臓血管）
吉田　卓矢（麻酔）
専門医：
岡田　有理（麻酔）
白川　尚隆（麻酔）
杉野　太亮（麻酔）
坪井　ちづ（麻酔）
西原　侑紀（麻酔）
田中　明子（麻酔）
光井　誠子（麻酔）
阿瀬井　宏佑（麻酔）
中村　友季子（麻酔）
原田　みどり（麻酔）
中山　莉子（麻酔）
原　翔平（麻酔）
井関　将彦（麻酔）
中井　愛理（麻酔）
宮崎　純志（麻酔、集中治療）
森本　優佳子（麻酔）
南　綾乃（麻酔）
森　梓（麻酔）
志賀　萌（麻酔）
正田　康一郎（麻酔）
上村　圭広（麻酔）
早田　宜史（麻酔）
八代　和也（麻酔）
麻酔科認定病院番号：29
特徴：大学病院であることから高度専門・先進医療を提供している。多種多彩な症例の麻酔管理を経験できる。また、集中治療やペインクリニック分野においても十分な研修を行うことが可能である。

・地方独立行政法人福岡市立病院機構　福岡市立こども病院
研修実施責任者：
水野　圭一郎（麻酔，集中治療）
専門研修指導医：
水野　圭一郎（麻酔）

泉　薫（麻酔）
住吉　理絵子（麻酔）
藤田　愛（麻酔）
小栁　幸（麻酔）
伊藤　恵（麻酔）
百瀬　未来（麻酔）
認定病院番号：205
特徴：サブスペシャリティとしての小児麻酔を月30～50例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸・循環管理の実践的な研修が可能。地域周産期母子医療センターであり、超緊急を含む帝王切開や双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼などの周産期手術の麻酔管理も経験できる。外科・整形外科・泌尿器科・産科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている。急性痛治療にも力を入れており、麻酔科主導で硬膜外鎮痛やPCAを管理している。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

・九州大学病院

研修実施責任者:山浦　健
専門研修指導医:
山浦　健（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
東　みどり子（麻酔）
神田橋　忠（麻酔）
白水　和宏（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
牧　盾（麻酔、集中治療、救急）
住江　誠（麻酔、心臓血管麻酔）
崎村　正太郎（麻酔、集中治療）
福徳　花菜（麻酔、緩和ケア）
石川　真理子（麻酔）
信國　桂子（麻酔）
水田　幸恵（麻酔、心臓血管麻酔）
浅田　雅子（麻酔、ペインクリニック）
石橋　忠幸（麻酔）
眞島　妙子（麻酔）
中村　侑里（麻酔）
渡邊　雅嗣（麻酔）
中野　良太（麻酔）
篠塚　翔（麻酔、ペインクリニック）
中島　考輔（麻酔）
高森　遼子（麻酔）
赤坂　泰希（麻酔）
坂田　いつか（麻酔）

専門医：
春田　怜子（麻酔）
吉村　美穂（麻酔）
上原　英梨子（麻酔）
福地　香穂（麻酔）
松山　優梨子（麻酔）
小佐々　翔子（麻酔）
認定病院番号：8
特徴：九州大学病院は、全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大動脈弁置換術）、ロボット手術等の症例数も多く、高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。また、集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど、関連分野での幅広い研修を行うことができる。

・社会医療法人雪の聖母会　聖マリア病院（以下、聖マリア病院）

研修実施責任者：島内　司（麻酔）

専門研修指導医：

島内　司（麻酔）

藤村　直幸（麻酔・救急・集中治療）

自見　宣郎（麻酔）

坂井　寿里亜（麻酔）

佐々木　翔一（麻酔）

井手　朋子（麻酔）

犬塚　愛美（麻酔）

高口　由希恵（麻酔）

前田　愛子（麻酔）

認定番号：483

特徴：当院は、救命救急センター、総合周産期母子医療センターを併設している地域中核病院です。救急医療に主軸を置く当院では、24 時間 365 日患者さんを受け入れており、新生児から高齢者まで数多くの症例を経験できます。年間麻酔科管理症例数が約 5000 例あるため、麻酔科専門医取得に必要な症例は、当院で全て経験することが可能です。

当院の麻酔の特徴としては

①整形外科手術、呼吸器外科、外科、小児外科、形成外科に対しては、超音波ガイド下末梢神経ブロックを用いた麻酔管理や術後疼痛管理を積極的に行っています。

②小児の麻酔症例が多いのが特徴です。6 歳未満の小児の手術件数は年間 400 件を超えています。

③心臓血管外科手術は、胸部大血管手術や弁置換術に加え、EVAR など低侵襲心臓大血管手術を経験できます。

④形成外科が、口唇口蓋裂、頭蓋縫合早期癒合症など先天異常に対する治療を積極的な行っているため、気道確保困難が予想される Treacher Collins Syndrome や Pierre Robin Syndrome などの症例を経験できます。
⑤福岡県南の産科医療の拠点であり、ハイリスク妊婦の麻酔を数多く経験できます。帝王切開の手術件数は年間 250 件前後です。
⑥外科、脳神経外科、整形外科、形成外科の緊急手術が多いため、緊急手術症例対応に必要な知識と技術を取得できます。
⑦日本でも有数の股関節・大腿近位の骨折の治療実績を誇り、脊髄くも膜下麻酔や硬膜外麻酔の手技を多く経験できます。

・福岡県済生会福岡総合病院（以下，済生会福岡病院）
研修実施責任者：吉村　速（麻酔）
専門研修指導医：
吉村　速（麻酔）
倉富　忍（麻酔）
福元　智子（麻酔）
阿部　潔和（麻酔）
八田　万里子（麻酔）
川崎　莉佳（麻酔）
認定病院番号：1043
特徴：済生会福岡総合病院は、病床数369床、手術室９室（うち1つはハイブリッド手術室)、年間手術症例数約4500件、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、福岡県災害拠点病院に指定されている、福岡市の中心天神地区に位置する中規模急性期総合病院である。
ハイブリッド手術室では、TAVI・TEVARをはじとする経カテーテル手術を全身麻酔科下で施行しているほか、ロボット支援手術システムを取り入れた高度先進医療も積極的に行い、難易度の高い術式や循環器系の重症合併症を有する患者の手術症例が数多く施行されている。
また、第 3 次救急救命センターを有しているため、緊急手術症例が多く、全手術件数の 20%以上が緊急手術で、胸腹部大動脈破裂・頭部外傷・消化管穿孔・多発外傷等の緊急手術に 365 日 24 時間対応し、地域の急性期医療の一翼を担っている。

・九州医療センター（以下，九州医療センター）
研修実施責任者：
辛島　裕士（麻酔，心臓血管麻酔）
専門研修指導医：

辛島　裕士（麻酔，心臓血管麻酔）
甲斐　哲也（麻酔，ペインクリニック）
中垣　俊明（麻酔）
虫本　新恵（麻酔）
川久保　紹子（麻酔）
姉川　美保（麻酔）
河野　裕美（麻酔）
渡邊　麻美（麻酔）
濱地　朋香（麻酔）
認定病院番号：697
特徴：外科系の全診療科を有し、麻酔科専門医に求められる全ての領域の麻酔を経験することができる。グレードA（超緊急）帝王切開を含めて多くの緊急手術を受け入れており緊急への対応を身につけることもできる。また、心臓血管麻酔専門医認定施設であり心臓血管麻酔も多数経験することができる。術後鎮痛に配慮してエコーガイド下末梢神経ブロックを積極的に施行しており、対象症例も多いため、神経ブロックも多く経験することが可能である。

・地域医療機能推進機構九州病院（以下，JCHO九州病院）
研修実施責任者：吉野　淳（麻酔）
専門研修指導医：
吉野　淳（麻酔）
芳野　博臣（麻酔）
松本　恵（麻酔）
今井　敬子（麻酔）
水山　有紀（麻酔、集中治療）
小林　淳（麻酔）
井村　一也（麻酔）
認定番号：257
特徴：北九州市西部を中心に遠賀・中間地域や直方・鞍手地域の地方急性期医療を担っている。超低出生体重児から高齢者まで、さらに成人先天性心疾患合併妊婦やハイリスク妊婦，循環器や呼吸器系に重篤な合併症を抱えた患者も受け入れている。
特に小児循環器科では 九州北部・山口から広域に患者を受け入れており、手術症例も多い。このため、先天性心疾患手術は心室中隔欠損から単心室・複雑心奇形まで多彩である。成人心臓手術も多岐にわたり、弁膜症や冠動脈バイパス手術、急性大動脈解離や大動脈破裂など心臓血管専門医に必要な症例は全てカバーできる（2025年度320例）。
JB-POTを有するスタッフは現在6名、心臓血管麻酔専門医は4名、集中治療専門医1名在

籍している。手厚い指導体制で後期研修医のスキルアップをサポートする。ハイブリッド手術室での、ASD/PDAカテーテル閉鎖術や動脈瘤のステント手術、大動脈弁置換手術のTAVIに加えて、2024年度より左心耳閉鎖デバイス（Watch Man）も導入された。
また、地域周産期母子医療センターを併設しており、胎児診断を元に産婦人科・新生児科・麻酔科がチーム医療と相互サポート体制で計画的に治療を行い、周産期の産科麻酔・新生児麻酔の研修体制をバックアップする。無痛分娩も年間7例（2025年度）であるが開始した。
麻酔科管理症例は4089例で、6歳未満の麻酔症例数は259例（2025年度）であり、小児麻酔認定医への症例数は十分である。安全・安心な周術期管理を第一としつつも、末梢神経ブロック積極的に併用し、こどもたちにも多角的鎮痛により良好な鎮痛を目指している。
学会発表も積極的に行っており、これまでにはアメリカ麻酔学会や欧州麻酔学会、世界気道管理学会での発表実績がある。

・福岡大学病院

研修プログラム統括責任者：秋吉　浩三郎
専門研修指導医：
秋吉　浩三郎　（麻酔、心臓血管麻酔、緩和ケア）
重松　研二　　（麻酔、集中治療）
柴田　志保　　（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
佐藤　聖子　　（麻酔、産科麻酔、小児麻酔）
三股　亮介　　（麻酔、心臓血管麻酔）
外山　恵美子　（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）
富永　将三　　（麻酔、産科麻酔、小児麻酔）
南原　菜穂子　（麻酔、集中治療）
山田　宗範　　（麻酔、心臓血管麻酔、集中治療）
中西　洋太朗　（麻酔、集中治療）
越智　麻衣子　（麻酔、産科麻酔）
原　仁美　　（麻酔）
松岡　采花　　（麻酔、産科麻酔）
渡嘉敷　綾音　（麻酔、産科麻酔、集中治療）
松本　志緒里　（麻酔、心臓血管麻酔）
丸田　弦　　（麻酔、心臓血管麻酔）
麻酔科認定病院番号：92
麻酔科管理症例数：7837症例

特徴：年間8000例以上の手術症例数，約7000例以上の麻酔科管理症例があります。症例数は豊富で、麻酔科専門研修に必要な症例はすべて経験することができます。施設としては、移植手術（脳死および生体肺移植術、腎移植手術)、心大血管手術や外傷手術などの緊急手術を多く経験できることが特徴です。麻酔管理では、超音波ガイド下の末梢神経ブロックを数多く行っています。また、術後疼痛管理チームを立ち上げて術後の疼痛管理に積極的に取り組んでいます。周術期管理センターでは看護師・薬剤師・歯科衛生士・栄養士と連携し、全身状態の評価を入院前から行っています。麻酔科医が主体となって集中治療室(GICU)を運営しており、周術期を通した全身管理の他，肺炎などの内科疾患も学ぶことができます。ペインクリニックでは急性痛･慢性痛に対する薬物療法や神経ブロックを経験できます。緩和ケアではチームの一員としてがん患者とその家族の身体的・精神的苦痛を和らげる支援をしています。その他、神経ブロックを始めとする各種講習会や研修会を定期的に開催しており、様々な資格・認定を取得することが可能です。2025年より新病院となり、より快適な研修環境を提供しています.

・福岡赤十字病院

研修実施責任者：迎　雅彦
専門研修指導医：
迎　雅彦（麻酔）
岩下　耕平　（麻酔）
生野　愼二朗（麻酔）
平野　敦梓　（麻酔）
緒方　大将　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：243
麻酔科管理症例数：4085例
特徴：帝王切開術、心臓血管手術、胸部外科手術、脳神経外科手術の症例数はそれぞれバランス良く行われ、帝王切開術は特に多い。腎センターが併設されており、透析患者の麻酔管理も多い。全身麻酔を基本に、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、神経ブロックを併用した麻酔管理を行っている。近年は麻酔困難症例に対して超音波ガイド下の神経ブロックを積極的に行っている。今後は周術期麻酔管理を広げ術後痛管理なども拡大していく予定。

・白十字病院

研修実施責任者：平井　孝直
専門研修指導医：
平井　孝直　　（麻酔）

丹羽　紗耶加　（麻酔）
麻酔科認定病院番号：1140
麻酔科管理症例数：2192症例
特徴：　整形外科・泌尿器科の手術症例数が多く、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、超音波ガイド下末梢神経ブロックなどの区域麻酔併用症例が豊富である。
腹部消化器外科手術の症例数が多く、泌尿器科とともにロボット支援下手術が増加している。
心臓血管外科症例では、低侵襲心臓手術が多く血管内手術も行っている。
脳外科症例は、開藤手術だけではなく、ハイブリッド室での血管内手術や脊椎手術も行っている。

・唐津赤十字病院
研修実施責任者：白武　孝久
専門研修指導医：
白武　孝久（麻酔）
麻酔科認定病院番号：574
麻酔科管理症例数：1674 症例
特徴：佐賀県北部地域における医療の中核を担っている。消化器外科、呼吸器外科、整形外科、脳外科、形成外科をはじめ様々な外科系手術を行なっており、外傷、くも膜下出血、帝王切開などの緊急手術症例も経験することができる。

・福岡東医療センター
研修実施責任者：楠本　剛
専門研修指導医：
楠本　剛（麻酔）
麻酔科認定病院番号：654
麻酔科管理症例数：2046例
特徴：地域の救急医療を担う、呼吸器外科手術が多い

・福岡大学筑紫病院
研修実施責任者：若崎　るみ枝
専門研修指導医：
若崎　るみ枝（麻酔）
中原　春奈　（麻酔）
野口　紗織　（麻酔）
熊野　仁美　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：398
麻酔科管理症例数：2530症例
特徴： 地域医療支援病院として特に整形外科、消化器外科、眼科の手術が多く行われており、それ以外には耳鼻咽喉科、脳神経外科、呼吸器乳腺外科、泌尿器科、消化器内科の手術を麻酔科管理で行っている。
2024年度11月から導入された手術支援ロボットによる手術は今年度から消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科で行っている。

・独立行政法人国立病院機構　九州がんセンター
研修実施責任者：秋吉　浩美　（麻酔）
専門研修指導医：
秋吉　浩美　（麻酔）
小林　祐紀子（麻酔）
麻酔科認定病院番号：774
麻酔科管理症例数：2198症例
特徴：がん専門病院であり、進行癌に対する複数科合同手術の麻酔が経験できる。頭頚科領域悪性腫瘍手術に対する腫瘍切除、遊離空腸皮弁による再建術、頭頸科、消化管外科合同の食道切除、再建術、また下部消化管進行癌に対する泌尿器科または婦人科合同の骨盤内臓全摘出術などがある。胸腔鏡下腹臥位、開胸仰臥位食道切除再建術を含む分離肺換気症例も多い。

・北九州市立医療センター
研修プログラム統括責任者：加藤　治子
専門研修指導医：
加藤　治子（麻酔、ペインクリニック）
齋川　仁子（麻酔）
原賀　勇壮（麻酔、緩和ケア、ペインクリニック）
武藤　官大（麻酔、ペインクリニック、災害）
武藤　佑理（麻酔、ペインクリニック）
神代　正臣（麻酔、緩和ケア、ペインクリニック）
豊永　庸佑（麻酔）
松山　宗子（麻酔）
中野　涼子（麻酔、心臓血管麻酔）
小川　のり子（麻酔、ペインクリニック）
岡田　久乃　（麻酔、産科麻酔）
麻酔科認定病院番号：316

特徴：高度型がん診療拠点病院であり、ロボット支援手術を筆頭に高度がん医療の麻酔管理を行います。総合周産期母子医療センターも有しており、超緊急帝王切開を含め産科急患や、出生直後の新生児外科症例を経験します。ペインクリニック（ペインクリニック学会指定研修施設）や緩和ケア（がん治療支援）も学ぶことができます。

・北九州総合病院

研修プログラム統括責任者：青山和義
専門研修指導医：
青山　和義（麻酔）
竹田　貴雄（麻酔、ペインクリニック）
西村　昌泰（麻酔）
竹中　伊知郎（麻酔）
野上　裕子（麻酔）
佐藤　珠美（麻酔）
専門医：
添田　祐治（麻酔）
奥村　美絵（麻酔・救急）
認定病院番号：447
特徴：当院は救命救急センターを有し、高度外傷をはじめ多彩な緊急手術を経験できる。神経ブロック併用の整形外科手術も多い。小児、胸部外科、脳神経外科、帝王切開などの経験必要症例もバランスよく研修可能である。

・琉球大学病院

研修プログラム統括責任者：垣花学
専門研修指導医：
垣花　学（麻酔）
中村清哉（麻酔，ペインクリニック、緩和）
渕上竜也（麻酔，集中治療）
大城匡勝（麻酔）
照屋孝二（麻酔，集中治療）
野口信弘（麻酔）
神里興太（麻酔，集中治療）
宜野座到（麻酔）
仲嶺洋介（麻酔）
渡邉洋平（麻酔）
桃原志穂（麻酔）

幾世橋美由紀（麻酔）
渡慶次さやか（麻酔，ペインクリニック）
小田浩央（麻酔，集中治療）
和泉俊輔（麻酔）
林　美鈴（麻酔，集中治療）
松尾敬介（麻酔）
新里勇人（麻酔，ペインクリニック）
山川翔太（麻酔）
我喜屋亮太（麻酔）
専門医：
福地万寿美（麻酔）
兼島充基　（麻酔）
知念加奈子（麻酔）
麻酔科認定病院番号　49
特徴：先進的な幅広い症例が経験でき、指導体制も充実している。
集中治療、ペインクリニックを含む集学的な周術期管理を学べる。

・浦添総合病院（以下、浦添総合病院）
研修実施責任者：藤岡　照久
専門研修指導医：
藤岡　照久
長谷川　真也
佐久間　隆弘
松野　敬
麻酔科認定病院番号：751
特徴：当院はドクターカーやドクターヘリを運用し救命救急センターを併設する三次医療機関です。専攻医の経験必須症例のうち、心臓血管外科の麻酔、胸部外科手術の麻酔（分離肺換気）、脳神経外科手術の麻酔が経験でき、その他にも外科、整形外科、脊椎・脊髄外科、食道外科、乳腺外科、耳鼻科、形成外科、口腔外科、腎・泌尿器外科の麻酔管理が習得できます。
市中病院ならではの一般的な手術の麻酔や交通外傷を含む重症患者の麻酔管理まで幅広く経験できます。

・沖縄県立中部病院（以下，中部病院）
研修実施責任者：西 啓亨
専門研修指導医：

西 啓亨（麻酔）
久保田　陽秋（麻酔）
金城　健大
石原　昌貴（麻酔）
嘉手川 康人（麻酔）
認定病院番号：241
特徴： 当院では、救命救急センター、総合周産期母子医療センターなどを有することから、緊急手術症例、特に外傷症例や産科緊急症例が多い。

・友愛医療センター（以下、友愛センター）
研修実施責任者：新里泰一
専門研修指導医：
宜保さとこ（麻酔）
赤嶺智教（麻酔）
新里泰一(麻酔)
松本智子（麻酔）
山腰美腰香(麻酔)
和田理沙子(麻酔)
認定病院番号：949
特徴：県内有数の症例数を誇り、小児外科領域以外の症例であれば種類も豊富である。日中は忙しいですが、休みは長短自由に取れるなど、即戦力を身に付けたい若手麻酔科医、育児中の麻酔科医、自分のペースで仕事にかかわりたい麻酔科医などあらゆるニーズを満たす寛容さがあります。

・宮崎県立延岡病院
研修実施責任者：白阪　哲朗
専門研修指導医：
白阪　哲朗（麻酔）
麻酔科認定病院番号：2012
特徴：県北地区の手術の中心施設である。心臓手術から小児の手術まで満遍なく研修ができる。

・宮崎市郡医師会病院
研修プログラム管理者：國武 歩
専門研修指導医：
國武 歩（麻酔）

宮里　岳志（麻酔）
麻酔科認定病院番号：933
特徴：医師会病院として、市内の緊急手術や手帝王切開術など迅速な対応が求められる手術麻酔を経験できる。心臓手術も多い。

・国立病院機構都城医療センター
研修プログラム管理者：岩崎 竜馬
専門研修指導医：
岩﨑 竜馬 （麻酔）
須田 陽子 （麻酔）
麻酔科認定病院番号：819
特徴：都城地区の中核病院。一般外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、など外科手術の麻酔管理を行う。緊急帝王切開術が多い。

・宮崎県立日南病院
研修実施責任者：吉村　安広
専門研修指導医：
吉村　安広（麻酔）
麻酔科認定病院番号：653
特徴：県南地区の手術の中心施設である。緊急帝王切開術が多い。

・久留米大学医療センター
研修実施責任者：西尾　由美子
専門研修指導医：
西尾　由美子（麻酔）
認定病院番号：1451

・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター（以下，医療センター）
研修実施責任者：川端徹也
専門研修指導医：
川端徹也（麻酔、小児麻酔）
比嘉久栄（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
杉浦(兼城)真帆（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
伊敷聖子（麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔）
野中信一郎（麻酔、小児麻酔、区域麻酔、心臓血管麻酔）
北原武尊（麻酔、小児麻酔）

松田龍太（麻酔、小児麻酔、区域麻酔
認定病院番号：409
特徴： 地域医療支援病院、小児麻酔専門施設、心臓血管麻酔認定施設。新生児から高齢者まで、麻酔関連の専門資格取得に必要な経験症例を全て網羅。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2026年10月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，宮崎大学麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

宮崎大学医学部附属病院　麻酔・集中治療科　教授 恒吉勇男
〒889-1692 宮崎県宮崎市清武木原5200
TEL 0985-85-2970
e-mail: isao45@med.miyazaki-u.ac.jp

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

７．専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

８．専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

＜専門研修１年目＞

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

＜専門研修２年目＞

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

＜専門研修３年目＞

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．

また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

＜専門研修 4 年目＞

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

９．専門研修の評価（自己評価と他者評価）

①　形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

②　総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

１０．　専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

１１．　専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らない

ように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．本プログラムの専門研修指導医は、事前に臨床研修指導医講習会を受ける。また、日本麻酔科学会の主催するFD講習の学会での受講もしくは日本麻酔科学会のEラーニングでの受講に努めることとする．

１２． 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して2年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

１３． 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての県立日南病院，都城医療センター病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

県立日南病院，都城医療センター病院では十分な指導医の数と指導体制が整っているが，指導体制が十分でないと感じられた場合は，専攻医は研修プログラム統括責任者に対して直接，文書，電子媒体などの手段によって報告することが可能であり，それに応じて研修プログラム統括責任者および管理委員会は，研修施設およびコースの変更，研修連携病院からの専門研修指導医の補充，専門研修指導医研修等を検討する．

１４．　専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します